

百年に橋架けるコミュニケーション —リレーシステムと記号論—

内山和也（うちやま・かずや）

別府大学大学院文学研究科日本語・日本文学専攻

元ネタ：

シービオク, T.A. (1985) 「一万年に橋架けるコミュニケーションの方法」, 『自然と文化の記号論』（池上嘉彦編訳）, pp.123-172, 勁草書房. (Thomas A. Sebeok "Communication Measures to Bridge Ten Millennia" 1984 核廃棄物処理局の諮問に対する答申書)

→放射性廃棄物の貯蔵庫に人間が侵入する事態を1万年（300世代）に渡って食い止めるためのコミュニケーションの方法についての考察

記号論：

言語的・非言語的なコミュニケーションの体系についての科学研究を一括して行う学問分野（シービオクによる定義）

コミュニケーション（情報伝達）の『リレー・システム』：

シービオクが推奨している300世代先へのコミュニケーションの方法

- ▷人間の情報システムは変化するため一万年後にも絶対安全なコミュニケーションは考えられない
- ▷比較的短い間隔でメッセージを再コード化する；300世代を3世代に分割して管理することを考える
- ▷3世代（われわれの子供、孫、曾孫まで）→無理なく予見可能な期間

→3世代を隔てたコミュニケーションは容易なものなのか？ [今回の検討課題]

参考：

記号論のコミュニケーションの基本モデル（コードモデル）

